

佐賀は、ユニバーサルデザイン



# 佐賀から日本のやさしさを ~広げよう、ユニバーサルデザイン

**ユニバーサルデザインとは?**

誰にとっても違和感なく、自然に使えるかたちやサービスを追求すること。その原点は、優しさや思いやり、身近な場所に、ユニバーサルデザインは広がっています。

13年度テーマ  
**人づくりへのアプローチ**

誰もが輝き、暮らしやすい社会の実現へ向け、官民一体となった県民運動「佐賀から日本のやさしさを~広げよう、ユニバーサルデザイン」を展開しています。3年目となる最終年度のテーマは「人づくりへのアプローチ」。「優しさ」「思いやり」などUDの土台となる理念を掲げて活動する団体・個人の取り組みにスポットを当てます。

## 卓球/バレーの普及に奔走



レベルアップを目指す3チームが集まった卓球バレーの練習会=佐賀市の県民運動推進センター

通常はハイプイスに座ってプレー。車いすの場合は卓球台の下に滑り込ませる

### ニュースポーツで生きがいを

障害の有無や年齢にかかわらず、誰でも参加できるスポーツとして注目を集める球技「卓球バレー」を県内で普及させようと、西九州大学ESRDサークルの学生が県内の福祉施設などを飛び回っている。障害がある人の中には、自分のできる範囲で体を動かし、仲間とともにプレーする喜びを実感した人も多く、出張体験会の会場は自然と笑顔に包まれる。

この日の練習会に参加したのは3チーム。その中の一つ「かちからず」(佐賀市のメンバー)は、県立地域生活リハビリセンター(佐賀市)に通っていた人やその家族たちだ。

約2年前ESRDの学生たちは同センターを訪れ、卓球バレーを紹介する機会を得た。ルールを説明し、実際にプレーを披露して見せた。「最初はこんなスポーツもあるんだ」という程度でそれかみするうちに、はまっていた。重度の人でも力の弱い人にも、ボールを受けるなどそれぞれに役割がある。その意味で、「ハンディがない」ところが魅力。自身も障害があるリーダーの本山晃(59)は卓球バレーとの出会いを覚えてくれた学生たちに感謝する。

Vol. 6

西九州大学  
ESRDサークル

大きな文字で読みやすく  
一つの卓球台を囲んで自然のラリーを繰り返した。

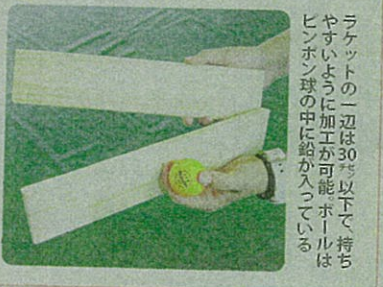
それぞれに役割

#### 1チーム6人、それぞれに役割

卓球バレーは1チーム6人で卓球台を囲み、木の板を使ってボールを3打以内でネットの下から相手コートに打ち返す球技。ルールはバレーボールとほぼ同じ。フロッカーやレシーバーなどのポジションがあり、障害の種類や程度に合わせて、一人一人に役割がある。

プラスチック製のホールの中には鉛が入っており、強めにたたいても飛び跳ねることかかないように工夫されている。転がる際には音を発し、目の不自由な人でも確認できるように工夫されている。

29日にはムツコロウ杯卓球バレー交流大会が佐賀県民運動推進センター(佐賀市)で開かれる。大分、宮崎、熊本、山口県の9チームを含めた全22チームが参加予定。



これもユニバーサルデザインのひとつです。

UD information

### ニュースポーツ体感しよう

#### 来月26日にESRD大会

西九州大神崎キャンパスで10月26日、「エンジョイ・スポーツ & レクリエーションデー(ESRD大会)」が開かれる。16種のニュースポーツのラリー体験などを予定している。

同大ESRDサークルが主催。クラウンドゴルフや卓球バレーのほか、空き缶を倒すに積み上げる空き缶積みなどの競技を楽しむ。また、車いすテニス、車いすバスケの体験会もある。JR神埼駅から同大まで無料送迎バスが運行。当日参加で受け付けるが、団体の場合は事前に問い合わせる。

午前9時から午後2時まで。室内靴が必要。雨天時は隣接のB&G海洋センター体育館で開く。問い合わせは同大ESRDサークル、電話0952(37)9281へ。

ESRDサークルは、2002年11月に同大で開催された「エンジョイ・スポーツ & レクリエーションデー(ESRD大会)」を機に、陸上部の学生6人で立ち上げた。当時から顧問を務める同大健康福祉学部の山田方也准教授は「スポーツを通して世界が広がった」という障害者の方の声を聞き、それならば誰かが気軽に楽しめるニュースポーツを広めようと思いついたと振り返る。

クラウンドゴルフやキューラシー、ポッチャ、年齢や性別障害の有無を問わずに楽しめるニュースポーツは年々普及している。ESRDの学生たちは、訪れる施設の要望やスペース、対象者の年齢層などを考慮し、多様な種目の中から紹介する競技を決定中でも、力を入れたのが卓球バレーの普及だった。

「ラケットでボールを受ける、打つ、打つことはできないか受けることはできる人、障害に応じてどのポジションに座るか話し合い、一チーム

卓球バレーの評判が広がるにつれ、ESRDへの派遣要請も年々増えている。卓球バレー以外のニュースポーツを含めると、昨年度だけで公民館や地域のイベントなど108回の出張体験会を実施した。学業との両立を考えると、そろそろ限界にきているが、その一方で、卓球バレーを独自に楽しむグループが増えてきたのが嬉しい。今後はこうした人たちと一緒に出前教室の指導に当たりたいという。

現在、県内では15チームが活動。日々の練習に加え、県外へ遠征に出かけるチームも増えてきた。かちからずのメンバーで、脳血管障害により半身の自由を失ったという女性(40)は「またスポーツを楽しめるようになったことかうれし。今は、一つ一つの大会への出場を目指して頑張ることが、自分の目標にもなっている」と笑顔で話した。

ESRDの活動の原点は、誰もがスポーツを楽しむ環境を提案し、生きがいを見つけてもらうこと。高嶋さんと柳田さんは「決してイベント屋さんにならず、原点を忘れずに活動が続けていきたい」と語った。

長柳田菜摘さんがやりがいを感ずる瞬間だ。

派遣数増え  
年100回超

### わたしたちは県民運動「佐賀から日本のやさしさを」推進委員会に参加しています

- イオン九州
- 佐賀印刷社
- 佐賀整肢学園
- ソアー
- イズミ ゆめタウン佐賀
- 佐賀県社会福祉協議会
- 佐賀大学
- TOTO
- 嬉野温泉 大正屋
- 佐賀広告センター
- 佐賀大学
- TOTO
- 嬉野温泉美肌の宿 和多屋別荘
- 佐賀女子短期大学・佐賀女子高等学校
- 佐電工
- 永池
- NTT西日本 佐賀支店
- 佐賀新聞サービス
- J R九州佐賀鉄道部
- マックスバリュ九州
- マルセン看板
- 諸富家具振興協同組合
- 郵便局
- らいふ薬局
- 佐賀新聞社

次回は10月27日(予定)に掲載します 県民運動「佐賀から日本のやさしさを」推進委員会事務局(佐賀新聞社営業局内) ☎0952(28)2141 <http://www.saga-s.co.jp/ud/> 佐賀新聞 検索